

演劇への入口講座 第4回

小道具から楽しむ歌舞伎 一こだわりのモノづくりにせまる！



黒塗り蒔絵入り傾城蓑盆
銀延べ長煙管

写真撮影：江村伸雄

「演劇への入口講座」は、帝国劇場、日生劇場、東京宝塚劇場、国立劇場など、近隣に劇場が多く所在する日比谷ならではの、地域連携講座です。脚本家や演出家、舞台劇術家、研究者など、演劇に関わる講師を招き、見どころや、観劇がより楽しめる予備知識についてお話いただきます。ただ観劇に行くだけでは得られない話を聞くことで、演劇への知見と理解を深めます。

歌舞伎の舞台を支える小道具には、見えないところまでのこだわりが強く見られ、日本人ならではのモノへの思いを特に感じる事が出来ます。そんなこだわりのモノづくりから、歌舞伎の世界への第一歩を踏み出しませんか？「演劇への入り口講座」第4回は、実際に使用されている小道具と共に、小道具のあれこれをお話します。

講師

○近藤 真理子（藤浪小道具株式会社演劇部演劇課係長）

1977年、東京生まれ。学習院大学文学部哲学科卒業後、藤浪小道具株式会社に入社し、現在は演劇部演劇課係長。歌舞伎の舞台を中心に多くの公演を小道具方として担当しつつ、伝統芸能の中で後継者が絶えかかっている技術や物を次代に繋げていくべく、講座・イベントの開催など活動の幅を広げている。

○田村 民子（「伝統芸能の道具ラボ」主宰）

1969年、広島市生まれ。能楽や歌舞伎などの裏方、職人を主な領域とするライター。2009年より伝統芸能の道具の調査、技術や素材が消えつつある道具の復元を行う「伝統芸能の道具ラボ」を開始。『かぶき手帖2014』で特集記事「歌舞伎の小道具」を執筆、また東京新聞で「能楽お道具箱」を連載中。

開催概要

- 日時：2015年11月7日（土）14:00～16:00（受付13:30～）
- 会場：日比谷図書文化館 地下1階 日比谷コンベンションホール（大ホール）
- 定員：200名/（申込順）
- 参加費：1,000円（千代田区民 500円）/千代田区民の方は、当日、図書貸出券や健康保険証など住所が確認できるものをお持ちください。
- 申込方法：来館（1階受付）、電話（03-3502-3340）、Eメール（college@hibiyal.jp）いずれかにて
 - ① 講座名、②お名前（ふりがな）、③電話番号をご連絡ください。